

経済原論 I (神谷) 試験問題 平成10年7月16日 第1時限

持込 不可 試験時間 50分

以下の1から4までのすべてに答えよ。答は、結論だけでなく、結論を支える根拠についても適切に記せ。とくに数値を求める問題については、結果のみの答えは0点の採点とする。

- ある経済について、ある年の生産を2つの部門に分けて観察したならば、その当期市場価値額について次表に示す結果が得られた。またパーシェ型物価指数は、基準年の値を100として、生産部門1の生産物については110、生産部門2の生産物については120であった。

(単位：兆円)

	総産出	中間生産物	
		生産部門1へ	生産部門2へ
生産部門1	375	210	55
生産部門2	490	50	80

問1. つぎの数値を計算せよ。

- 生産部門1と生産部門2それぞれの最終生産物の当期市場価値額
- 生産部門1と生産部門2それぞれの粗附加価値の当期市場価値額
- 不変価格表示(基準年価格表示)のGDP
- パーシェ型総合物価指数

問2. 不変価格表示のGDPを、この経済の生活の豊かさの指標とみなしてよいであろうか。

- 「計画対市場の問題は、計画原理か市場原理かどちらを選ぶべきかという二者択一の問題ではない。これら二つの原理を、どのように混合するのがよいかという問題である」このような意見について、貴君の考えを述べよ。

- 貨幣供給の仕組みについて、つぎの問に答えよ。

問1. 銀行は、手持ちの現金の何倍かの預金通貨を創造して、企業や家計に貸しつけることができる。銀行はどのようにこのようなことができるか、説明せよ。

問2. 企業や家計は、全体として、保有する貨幣の37.5パーセントを現金で保有するものとしよう。要求払い預金に対する銀行の支払い準備率が20パーセントのとき、信用乗数の値はどれほどか。

- 有効需要原理は、経済の総需要 Y^D と総生産 Y とのあいだに $Y^D = a + bY$ の関係が成り立つことを前提としている。ここで a は正の定数、 b は0と1のあいだの定数である。この原理を実際の経済に応用する場合、2つの定数を決定するのは、それぞれ、どのような要因であると考えられるか。

また、この前提の下で、生産物市場で需要と供給が一致する均衡状態が存在するならば、その均衡は安定であることを説明せよ。均衡が安定であるとは、均衡状態から外れた状態で、経済を均衡に戻す調整作用が働くということである。